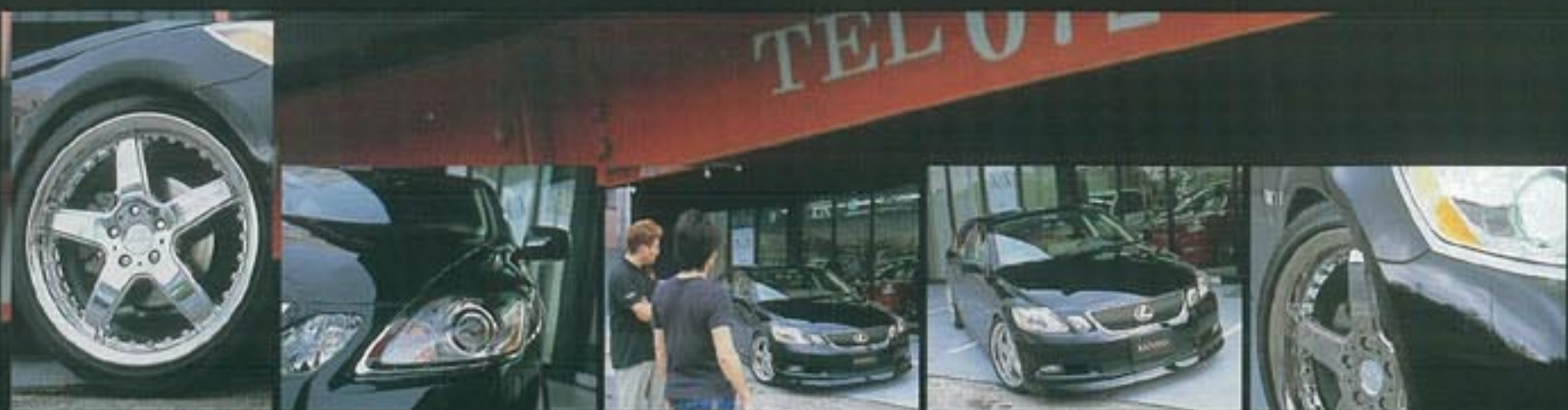


4メーカーの夢のコラボをVIPSTYLEが独占スクープ

# LEXUS GS

## プロジェクト

# 続報



エアロパーツ、ホイール、インテリア、そして足まわりの完成品。これらすべてのエキスパートが、10月15日（土）に東京オートギャラリーにて立ち上がった「LEXUS GSプロジェクト」の完成品が公開された。このプロジェクトは、今年春から着々と進むこのプロジェクトも、オートギャラリー開幕まで2週間を切った現在、いよいよ佳境を迎えつつある。そんな中、飛び込んできたのは、乱人が担当するエアロパーツとホイールの完成品に関する「前回の完成報告」。

「前回お見せした製作中のエアロパーツの完成品が、ほぼ順調に開発は進みました。現在、リアリルで開口部を加工しています。エアロは完全な真鍮製の完成品で、乱人の吉川サン。」

一方、ホイール担当のレイズからも新作「X503」の完成品が、現在、全国リリースに向けてインに載せて、ほとんど生産しているところだ。

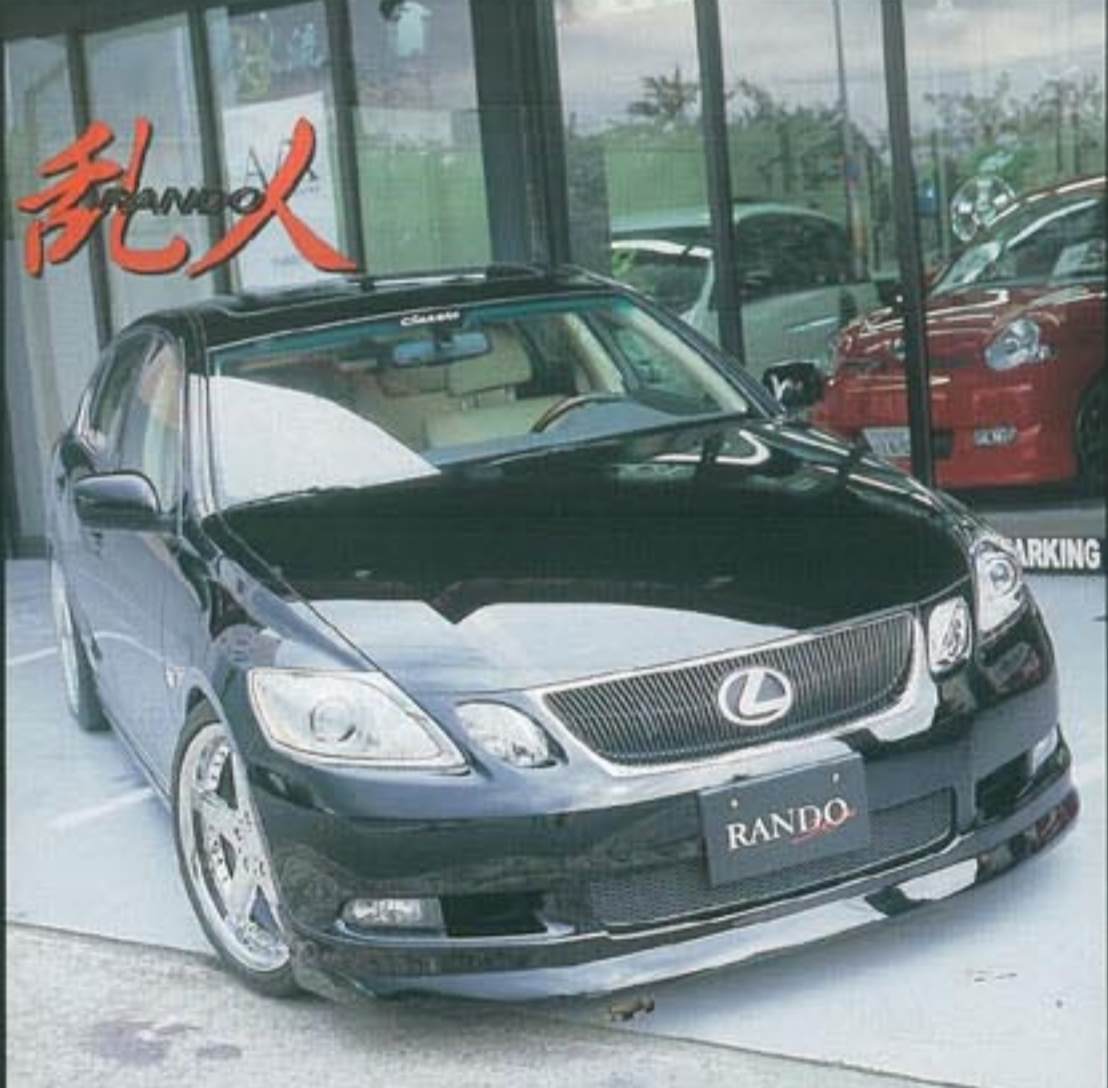
レイズの一山サンは、ホイール同様に塗装された専用エアロパーツを、さらばやかなクロームの輝きを放つホイールを履いたGS。日本未発売のこのプレミアムカーは、早くワンクラス上のプレステージ性を身に付けている。そしてこれから、内装と足まわりも極まる予定だ。第5のメーカー、タイヤ担当のGSがここまで進化したと聞けば、レイズも期待は尽きることがない。答えはもう開示。それを知りたいならば8月、東京に集結せよ。

レイズ 企画部 一山 貴

エアロテックジャパン 代表取締役 吉川 寛志



東京オートギャラリー開幕まで残すところ2週間弱。4メーカーのコラボレート企画として立ち上がったこのプロジェクトも佳境を迎えつつある中、乱人のエアロと、レイズのホイールの完成品が出来たとの情報をキャッチ。さらに新たにこのプロジェクトに参加を表明した、第5のメーカーの存在も明らかに。



### 計算ずくの足し引きで魅せる最新レクサスの新たな一面

先月号でスクープした、乱人のGS専用エアロの開発現場。そこで見て受けた期待感を少しも損なうことなく、もっと言えばさらに洗練さを増して、遂に製品版となるエアロパーツを纏ったGSが姿を現した。

「デキはかなが良いと思います。サイドは当初、ブレーンに持っていくつもりでしたが、ドアのメッキラインと乱人の吉川サン。」

ハーフスポイラーという限られたキャンパスの中でも、本来GSが持つポデラインを巧みに引き出し、若干足りなく感じた高級車特有の押し出し感を補っている。今回諸々のスケジュールの都合で装着はかなわなかったリアスポイラーも、同様の処理。トランクスポイラーも薄く滑らかな形状となっている。フルエアロ装着の初お披露目の舞台まで、期待を膨らませておこう。



5本のスポークが躍り出す走りのイメージ。立体的造型が演出するラグジュアリー、「スポーティでありながらエレガント」と一山サンが評したGSに、「A/X-X503」は完璧なマッチングで答えを出した。



5本のスポークが躍り出す走りのイメージ。立体的造型が演出するラグジュアリー、「スポーティでありながらエレガント」と一山サンが評したGSに、「A/X-X503」は完璧なマッチングで答えを出した。

### 伝統と革新を融合させた新スタンダードホイール

8月末から日本でも展開されるアメリカ生まれの高級ブランド「レイズ」のホイールは、その調音を合わせるように、レイズが新たな動きを開始。国内のA/X、アメリカのレクシオン、レイズが誇る国内外の高級カテゴリーブランドを、レクサス同様に統一させようというのだ。そしてその新シリーズの第一弾を担う「A/X-X503」が遂にベールを脱いだ。

新シリーズの期待を背負った「X503」はスポーク形状を採用。一見オーソドックスな5本スポークのようだが、今のクルマの雰囲気や志向に合わせた、奥行きを生かした立体的な造型が特徴。GSというプレミアムGTにもベストマッチ。普遍的なスポークの良さ、現在のトレンドに合わせた、魅せるためのテクニック。この2つの要素が巧みに融合したホイールは、早くもプレイヤーの注目を集めている。

## RANDO style

for LEXUS GS430

エアロテックジャパン TEL:072-838-7744 <http://www.aero-tech.co.jp>

AERO	フロントハーフスポイラー	6,900円
	サイドステップ	5,750円
	リアハーフスポイラー	6,700円
	ヒースリアウィング	4,750円



ドアミラーウィングカーディアンを想定し、空力性能を高めるための開口部をプレートを開発。写真はプロトタイプ。 車内が閉鎖中のシルコニアを埋め込んだエンブレム、グリル、トランク方面あり、コージャスな輝きカール。 前方に張り出したリップはこのブランドの特徴。それがGSの巻を込んだバンパーに、存在感を帯びている。

**tanabe** **ELF** **ELF**

やはりレクサスというまだどこにも見本のない車種が相手なだけに、タナベとエルフインターナショナルの手掛ける足まわりと内装は、多少時間はかかっている模様。今回の続報には間に合わなかったが、着々と開発は進んでいるので、安心を。

軽さと走るを両立するエアロブラは、足まわりとレクサスに似合いの足まわりだ。 クラッシュイオンは磁気吸着も魅力。

**DUNLOP**

### レクサスGSプロジェクトに第5のメーカー、参戦

ダンロップが輸入欧州車をターゲットに開発をすすめていた、新作タイヤ「SPスポーツマックス」を引っかけて、急遽プロジェクトに参加。ダンロップの頂点として長くその任務を果たしてきたSP9000に代わる新世代のフラッグシップタイヤは、走行安定性、静粛性、排水性などすべての機能を高いレベルで融合しているのだ。

トレット面には「SP9000」の跡が残っている。これは、SP9000のトレッドパターンを参考に、新しいトレッドパターンを考案した。SP9000のトレッドパターンを参考に、新しいトレッドパターンを考案した。

次号VIPSTYLE10月号では一般公開されるレクサスGSプロジェクトの完成版をお届け。目前に迫った東京オートギャラリー（8月5日～6日）に向け、プロジェクトのすべてを最終調整段階に突入。秒読みとばかりある一般へのお披露目に向けて、それぞれが最後のプログラムを消化している。エキスパートたちが作り上げた、フルカスタムのレクサスGSを、次号VIPSTYLEで余すことなく紹介する。お楽しみに。



## A/X-X503

レイズ TEL:06-6747-1133 <http://www.reyswheels.co.jp>